

REDNET R1

ユーザーガイド



FFFA002124

Focusrite®
www.focusrite.com

目次

本ユーザーガイドについて	3
同梱品	3
はじめに	4
REDNET R1コントロール部と接続	5
トップパネル	5
リアパネル	8
本体の特徴	9
所要動力	9
REDNET R1 操作 10	
最初の使用とファームウェアのアップデート	10
ファンクションキー	10
ヘッドフォン	10
サム	10
モード	11
ミュート	12
ソロ	12
出力	12
A/B	12
REDNET CONTROL 2	13
REDNET R1 GUI	13
ソースグループ	13
入力チャンネル構成	14
入力ソースの選択	14
モニター出力	15
出力タイプ選択	15
出力先選択	15
A/Bスイッチ設定	15
チャンネルマッピング	16
ミキサーに残っているチャンネル	16
トークバック	17
トークバックルーティング	17
ヘッドフォンセットアップ	17
キューミックス	18
ID(識別)	18
ツールメニュー 19	
付録	21
1. 端子ピン配列	21
2. 出入力レベル情報	22
性能と仕様	23

本ユーザーガイドについて

RedNet R1のユーザーガイドとなります。ガイドを通して、本体の設置方法、仕様方法、お使いのシステムへの導入方法を解説します。

Dante®およびAudinate® は、Audinate Pty Ltdの登録商標です。

同梱物

- RedNet R1ユニット
- DC電源をロック
- インサーネットケーブル
- 安全に関する情報ガイド
- Focusrite Pro 重要情報ガイド:
- 製品登録カード – カードに記載がある説明に従って、以下のリンクが記載されています:
 - RedNet Control
 - RedNet PCIeドライバ(RedNet Controlのダウンロードに含まれます)
 - Audinate Dante Controller (RedNet Controlと共にインストールされます)

はじめに

Focusrite RedNet R1をご購入頂きまして誠にありがとうございます。



RedNet R1はハードウェアモニターコントローラーとヘッドフォン出力機器です。

RedNet R1は、Red 4プレ、Red 8プレ、Red 8ライン、そしてRed 16ラインモニターセクションなどのFocusriteオーディオIP機器をコントロールします。

RedNet R1はRedインターフェイスのマイクプリをコントロールする機能があります。

RedNet R1の特徴は、入力ソースとモニター出力という2つの主なセクションがあります。

左画面の上下最大8マルチチャンネルソースグループを選択できます。各グループには"Spilled"ソースの個別チャンネルのミュートや調整レベルを可能にする選択ボタンがあります。

各ソースは、ソース内に最高のチャンネルレベルを表示するメーターがあります。またトークバック先のオプションも4つあります。

内蔵のトークバックマイクまたはXLR入力リアパネルを使用して、ユーザーは接続しているRed 4プリ、8プリ、8ライン、または16ラインにトークバック信号をルーティング指示が可能です。

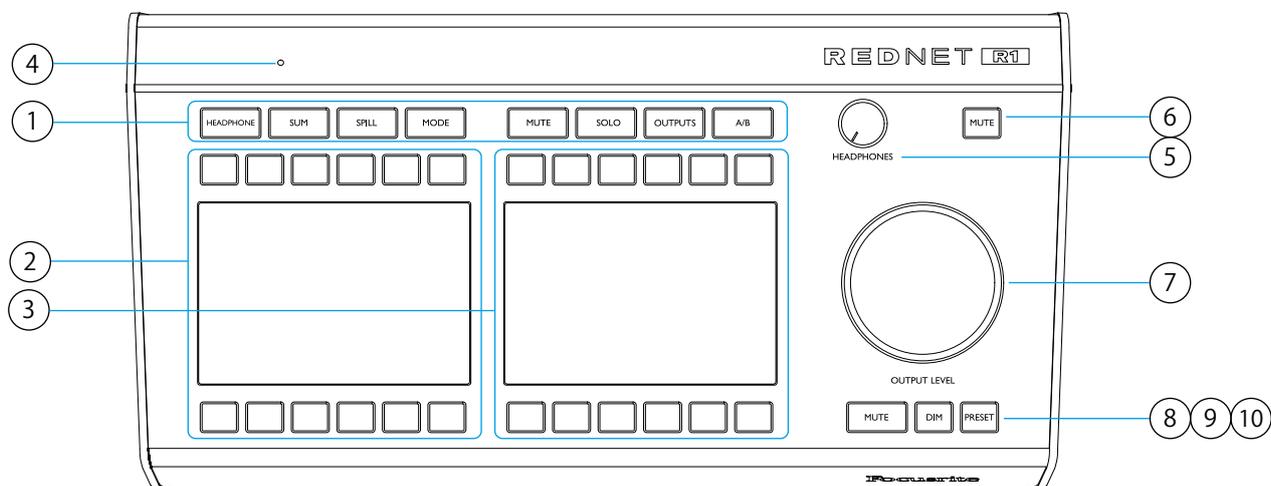
ユニットの右側はモニター出力セクションがあります。ここでは、ユーザーは個々に最大7.1.4の個別のスピーカー出力をソロまたはミュートすることができます。ワークフローさまざまなソロモードが用意されています。

大型アルミノブキャップを搭載した連続ポットは出力用のレベルコントロールおよび、個別のモニター/スピーカーのトリムも提供します。これに隣接し、ミュート、調光そして出力レベルロックボタンがあります。

RedNet R1コントロールの設定はRedNetコントロール2ソフトウェアは使用実行されます。

REDNET R1コントロール部と接続

トップパネル



1 ファンクションキー

8つのキーで機材の操作モードを選択し、サブメニューをリコールしシステム設定にアクセスします。詳細に関しては、10ページに記載していますので、参照ください。

- **ヘッドフォン** ローカルヘッドフォン出力のソース選択が可能です。
- **Sum** 複数のソースの選択モードをインターキャンセルからSUMに切り替えます。ヘッドフォンとスピーカー両方に適用されます。
- **Spill** ソースを拡張し、個々のコンポーネントチャンネルを表示します。
- **モード** 現在お使いの機器のモードを変更します。オプションは：モニター、マイクプリ、そしてグローバル設定です。
- **ミュート** アクティブなスピーカーチャンネルを個別にミュートまたはミュート解除することができます
- **ソロ** ソロまたはアンソロの個別スピーカーチャンネル
- **出力** スピーカー出力設定メニューにアクセスします
- **A/B** 2つの事前定義された出力設定を切り替えます。

2 スクリーン1

ファンクションキー1~4用のTFTスクリーン、オーディオ入力、トークバック選択、機器設定をコントロールする12個のソフトボタンがあります。10ページを参照してください。

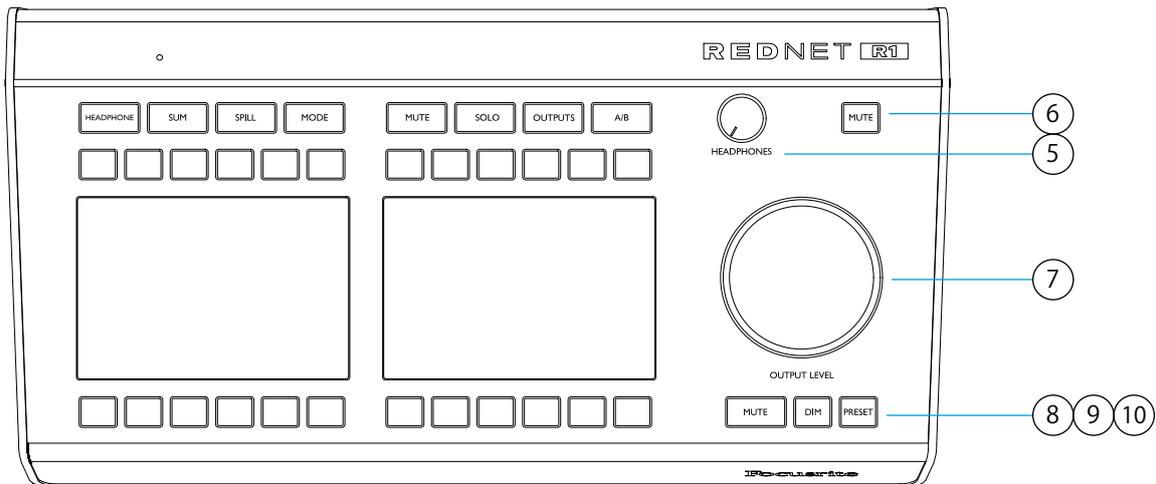
3 スクリーン2

ファンクションキー5~8用のTFTスクリーンはスピーカー設定とオーディオ出力管理をするための12個のソフトボタンがあります。12ページを参照してください。



4 トークバックマイク内蔵

トークバックマトリックスへのオーディオ入力。また代替えとして、外付けのバランスマイクをリアパネルXLRに接続することも可能です。8ページを参照ください。



5 ヘッドフォンレベルノブ

リアルパネルのステレオヘッドフォンジャックに送られるボリュームレベルをコントロールします。

6 ヘッドフォンミュート切替

ラッチスイッチはヘッドフォンジャックに送られる音声信号をミュートします。

7 出力レベルエンコーダー

選択したモニターに送信されるレベルをコントロールします。システム音量コントロール設定に関する追加情報については、付録2の22ページを参照してください。

また、プリセットレベル値、ゲイン設定、そして画面の明るさの調整にも使用されます。

8 モニターミュート切替

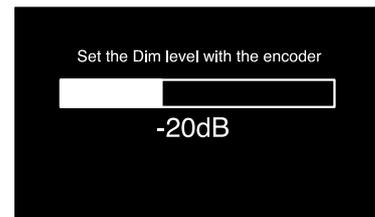
ラッチスイッチはモニター出力へ送られる音声信号をミュートします。

9 小音量モニタースイッチ

あらかじめ決められた小音量出力チャンネル

初期設定は20dBです。新しい値を入力するには：

- ・スクリーン2に現在の値が表示されるまで小音量スイッチを押したまま、出力レベルエンコーダを回転させます。



10 プリセットスイッチ

モニター出力レベルを、2つの定義された値のいずれか一つに設定可能です。

プリセットがアクティブの場合、スイッチは赤に変わり、出力レベルエンコーダーが切断され、モニターレベルが意図せずに変更されるのを防ぎます。

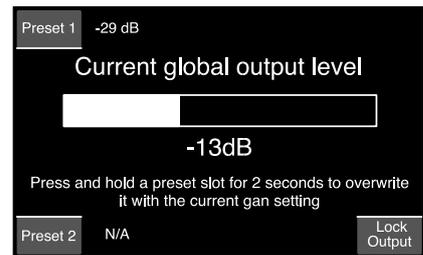
プリセットがアクティブな間、ミュートと小音量スイッチが正常に機能します。

つづく...

プリセットスイッチ

プリセットレベルを維持するには:

- プリセットスイッチを押します。
- スクリーン2には現在の値とプリセット1&2用の保存値が表示されています。N/Aはプリセット値が以前に保存されていなかった事を示します
- 出力エンコーダーを回転させ、新しいモニターレベルを取得します。
- プリセット1またはプリセット2いずれかを2秒間押し続け、新しい値を与えます。



プリセット値をアクティブにするには:

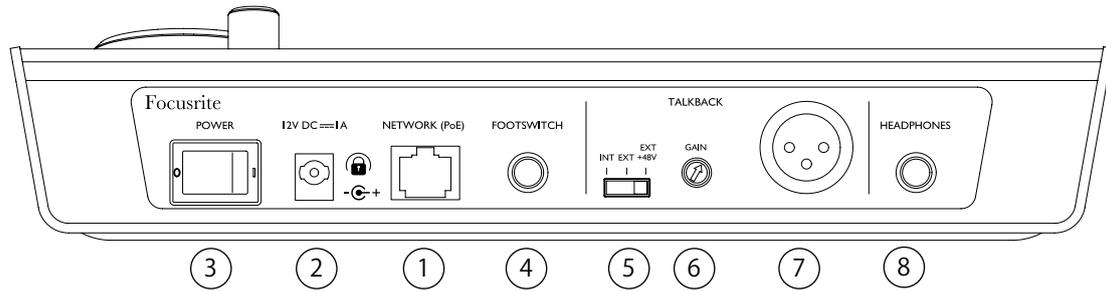
- 必要なプリセットボタンを押します。
 - プリセットフラグが点灯し、モニターが値に設定されたことを示します。
 - ロック出力フラグが点灯し、出力エンコーダーはロックされていることを表示します。
 - プリセットスイッチが赤に変わります。

プリセットを解除または変更するには:

- ロック出力(ソフトボタン 12)を押して、ロックを解除します。プリセットは解除されますが、現在のレベルは維持されます。

メニューを終了するには、ハイライトされたスイッチを1つ選択します。(プリセットを使用すると、前のページに戻ります。)

リアパネル



1 ネットワークポート/プライマリ電源入力*

Danteネットワーク用のRJ45コネクタです。標準のCat 5eまたはCat 6ネットワークケーブルを使用して、Red Net R1をインサートネットワークスイッチに接続します。

パワー オーバー インサートネット(PoE)を使用してRedNet R1に電源供給します。適切に電力を供給されたインサートネットソースを接続します。

2 二次電源入力*

パワー オーバー インサートネット(PoE)を利用できない場合に使用するロックコネクタ付きDC入力。PoEと連動して使用できます。

両方の電源が使用可能の場合、PoEが初期設定の電源になります。

3 電源スイッチ

4 フットスイッチ入力

1/4インチ モノジャックは追加の入力スイッチを提供します。ジャック端子を接続し、アクティブにします。スイッチ機能はRedNet Control Toolメニューを介して割り当てられます。20ページを参照ください。

5 トークバックマイク選択スイッチ

スライドスイッチをトークバックソースとして内蔵マイクまたは外付けマイクを選択します。+48Vファンタム電源を必要とする外付けマイクにはExt +48Vを選択します。

6 トークバックゲイン

選択したマイクソーストークバックボリューム調整

7 外付けトークバックマイク入力

外付けトークバックマイク入力用のバランスXLRコネクタ

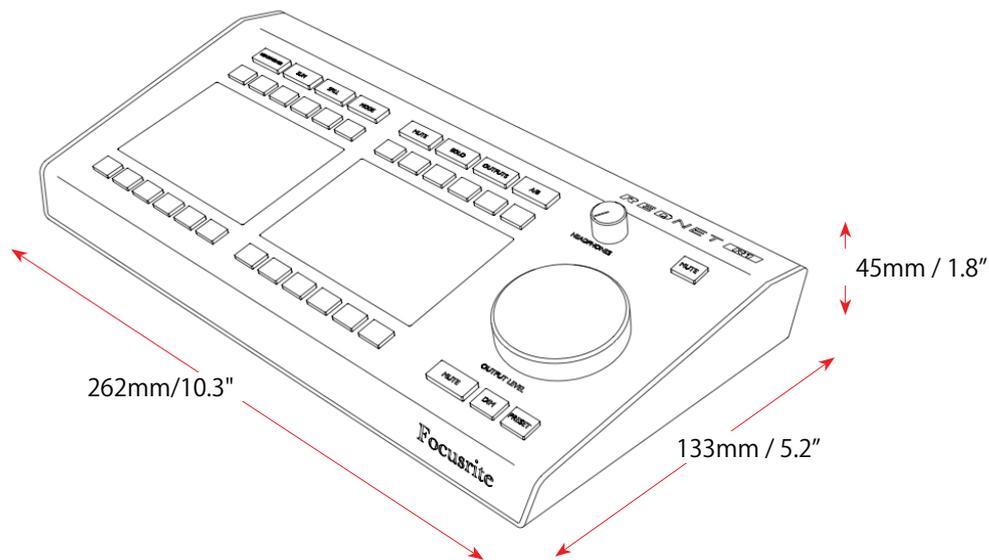
8 ヘッドフォンソケット

ヘッドフォン用の標準1/4インチステレオジャック

⚠ *健康と安全上の理由より、レベルが危険ではないことを確認するために、ヘッドフォンを通して確認している間にRedNet R1の電源をオンにしないでください。電源をオンにした場合、大音量の“ゴツン”という音が聞こえることがあります。

付録を参照ください。21ページにコネクタのピン配列の記載があります。

本体の特徴



RedNet R1寸法(コントロール部は除きます。)は、上の図に表記されています。

RedNet R1の重量は0.85kgで、デスクトップ取り付け用のゴム足が装備されています。冷却は自然対流によるものです。

注意:最大動作環境温度は40°C/104°Fです。

電源について

RedNet R1は、パワーオーバーインサートネット(PoE)または外部主電力を通してDC入力電源から2つの別々のソースから供給できます。

標準のPoE要件は次の通りです: 37.0-57.0V @ 1-2 A(おおよそ)-多くの適切に装備されたスイッチと外付けPoEインジェクターにより供給されています。

PoEインジェクターはギガビットケーブルを使用する必要があります。

12V DC入力を使用する際は、隣にある主要コンセントに供給されている外付けのプラグトップPSUに接続します。

付属のDC PSUのみRedNet R1で使用してください。他の外付け電源を使用すると性能に影響を及ぼすか、または本体に損傷を与える可能性があります。

PoEと外付けDC電源の両方が接続されている場合、PoEはお買い上げ時の設定になります。

RedNet R1の消費電力はDC電源: 9.0W、PoE: 10.3W

RedNet A16R MkIIIにおいて、ヒューズまたはどの部品であってもユーザーが自分で交換することはできませんのでご注意ください。サービスに関するお問い合わせはカスタマーサポートチームまでご連絡ください(18ページの「カスタマーサポートおよび本体サービス」を参照)。

REDNET R1 操作 10

最初の使用とファームウェアのアップデート

RedNet A16R MkIIを初めて装着し電源を入れると、ファームウェアのアップデート*が必要になる場合があります。ファームウェアのアップデートは、RedNet Controlのアプリケーションによって自動的に開始され、処理されます。

*ISAプリアンプの電源、もしくはRedNet Controlが作動中のコンピュータの電源を切ったり、またネットワークを切断して、ファームウェアのアップデートを中断しないでください。

Focusriteは、RedNetファームウェアのアップデートをRedNet Controlの新バージョン内で随時更新します。RedNetシリーズの製品は、RedNet Controlの新バージョンごとに提供されるファームウェアバージョンにて、常に最新の状態にしておくことを推奨します。

RedNet Controlアプリケーションは使用可能なファームウェアアップデートがあるかどうか自動的に通知します。

ファンクションキー



8つのファンクションキーは機材の操作モードを選択します。

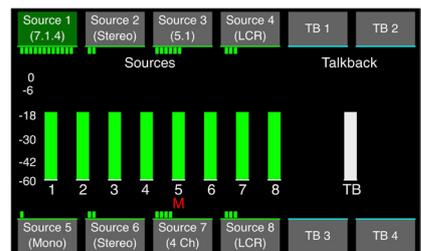
スイッチの色はその状況を特定します。それが点灯されていない場合、スイッチを選択できないことを示します。白は切替が選択可能のことを示し、他の色については切替が機能していることを示しています。

4つのボタンの各グループの真下にあるスクリーン1 & 2にはオプションが表示され、各機能でサブメニューが使用可能です。オプションは各スクリーンで用意されている12個のソフトボタンを使用して選択されます。

ヘッドフォン

入力ソース選択をスピーカー/モニター/ヘッドフォンから交換する。ヘッドフォンソースを選択すると、ボタンがオレンジ色に点灯します。

- ソフトボタンを1-4及び7-10を使用して入力ソースを選択する。下記の'Sum'キーを参照ください。
- このソースのレベルを調整するには、ボタンを押したまま出力エンコーダーを回転させます。
- ミュートされたチャンネルは赤い『M』で表示されます。次のページでSpillを参照してください。
- トークバックを機能させるには：
 - 5,6,11または12ソフトボタンを使用して表示された場所にトークバックを有効にします。
 - ボタンアクションはラッチまたはモーメンタリいずれかです。12ページに記載があるグローバル設定を参照ください。



サム

ソースグループの選択方法をキャンセル(シングル)とサムの間で切り替えます。

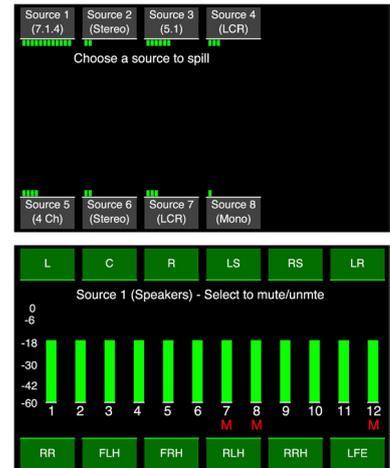
ツールメニューの『サミングビヘイビア』を選択すると、集められたソースが追加または削除されても、一定の音量を維持するように出力レベルが自動的に調整します。19ページを参照してください。

ファンクションキー。。。

スピル

ソースを開いてコンポーネントチャンネルを表示し、個別にミュート/ミュート解除できるようにします。

- Spillソースを選択してください。
- スクリーン1は、そのソースに含まれる(最大)12チャンネルを表示します。
 - ソフトボタンを使用し、チャンネルをミュート/ミュート解除します。
 - ミュートされたチャンネルは赤で『M』と表示されます。



モード

『モニター』、『マイクプリ』または『設定』サブメニューを選択します。

モニター—お使いのスピーカー/モニターまたはヘッドフォン選択モードにアクセスします。

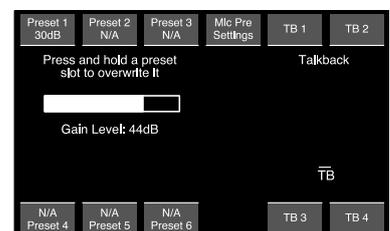
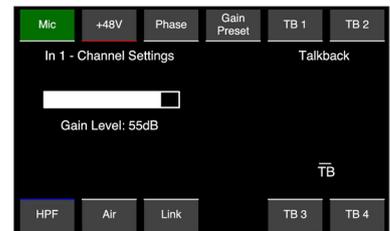
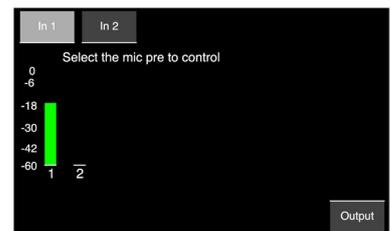
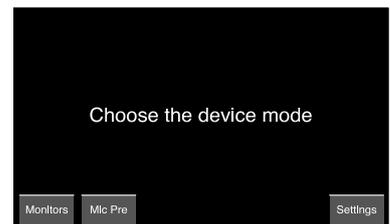
マイクプリ—リモート装置のハードウェアコントロールにアクセスします。

- ソフトボタン1-4または7-10を使用して、コントロールするリモート装置を選択します。次に下記を使用します：
 - ボタン1-3及び7-9でパラメーター装置を操作します。
 - トークバックを有効にするボタン5,6,11 & 12
- 『出力』を使用すると、モード変更せずにグローバル出力レベルを調整できます。
 - ソフトボタン12を選択し、出力エンコーダーを回転させてグローバルレベルに調整します。
 - 選択を解除し、マイクプリモードに戻ります。
- 『ゲインプリセット』はゲインボリュームを保存できる場所を6箇所提供します。保存された値を現在の選択されているチャンネルに適用するには、適切なプリセットボタンを押します。

プリセット値を割り当てるには：

 - プリセットボタンを選択し、出力エンコーダーを必要レベルまで回転させます。
 - 2秒間ボタンを押し続けて、新しい値を割り当てます。
 - 「マイクプリ設定」を押して、マイクのパラメーター表示に戻ります。

つづく...



ファンクションキー。。。。

設定—グローバル設定サブメニューにアクセスします。

- トークバックラッチ—トークバックボタンの動作をモンメンタリーとラッチの間で切り替えます。

- オウトスタンドバイ—アクティブにすると、休止の5分後、TFTスクリーンがオフになります。言い換えれば、メータリング変更はなく、スイッチを押すか、ポットの動作が休止します。

システムは、あらゆるスイッチを押すか、エンコーダーを起動させることによって、起動します。

ご注意ください：意図しない設定変更を避けるために、初期のスイッチプレスまたはポット動作は、システムを起動する以外に効果はありません。しかしながら。。。。

ミュートボタンとディムボタンは例外で作動中のままで、二つのいずれかのボタンを押すとシステムが起動し、オーディオをミュートまたはディムになります。

- 明るさ—出力エンコーダーを回転させスクリーンの明るさを調節します。
- ディバイスステータス—機材及び制御下のデバイス (DUC) のハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク設定を表示します。



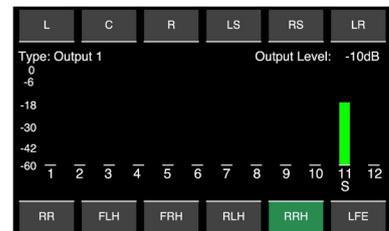
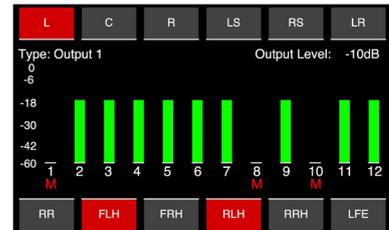
Mute

ソフトボタンを使用して、個々のスピーカーチャンネルをミュートします。ミュートされたチャンネルは赤で『M』と表示されます。

Solo

ソフトボタンを使用して、個々のラウンドスピーカーをソロまたはソロ解除します。

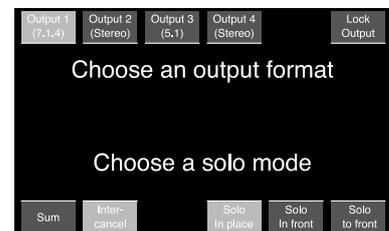
- 「S」はミュートモードの際に、ソロステータスはアクティブであることを表示します。
- ソロモードオプションは出力メニューから設定します。下記を参照ください。



出力

チャンネル出力フォーマットとソロボタンの動作モードを選択することが可能です。

- 出力用の1, 2, 3 & 4の4つのスロットそれらはRedNet Controlで設定されます。15ページをご参照ください。
- ロック出力 プリセットスイッチの複製(6 & 7ページ)
- ソロサム/インターキャンセル
- ソロインプレーズ 選択したスピーカーをソロにして、他のスピーカー全てをミュートにする。
- ソロで/
 カーを絞る 選択したスピーカーをソロにして、他の全てのスピーカーを絞る
- ソロで 選択したソロスピーカーから別のスピーカーにオーディオを送信する。



A/B

2つの異なるスピーカー構成を素速く比較できます。AとB構成はRedNet コントロールモニター出力メニューから設定します。15ページをご参照ください。

REDNET CONTROL 2

RedNet Control 2は、カスタマイズ可能なFocusriteのソフトウェアアプリケーションで、RedNet、Red rangeインターフェイスを制御、および設定します。各機材のグラフ表現は：コントロールレベル、機能設定、信号メーター、信号のルーティングとミキシング、電源、クロックそして主/代替のネットワーク接続のステータスインジケータを提供します。

REDNET R1 GUI

RedNet R1のグラフ設定は、5ページに分かれて記載があります：



- ・ ソースグループ
- ・ トークバック
- ・ モニター出力
- ・ キューミックス
- ・ チャンネルマッピング

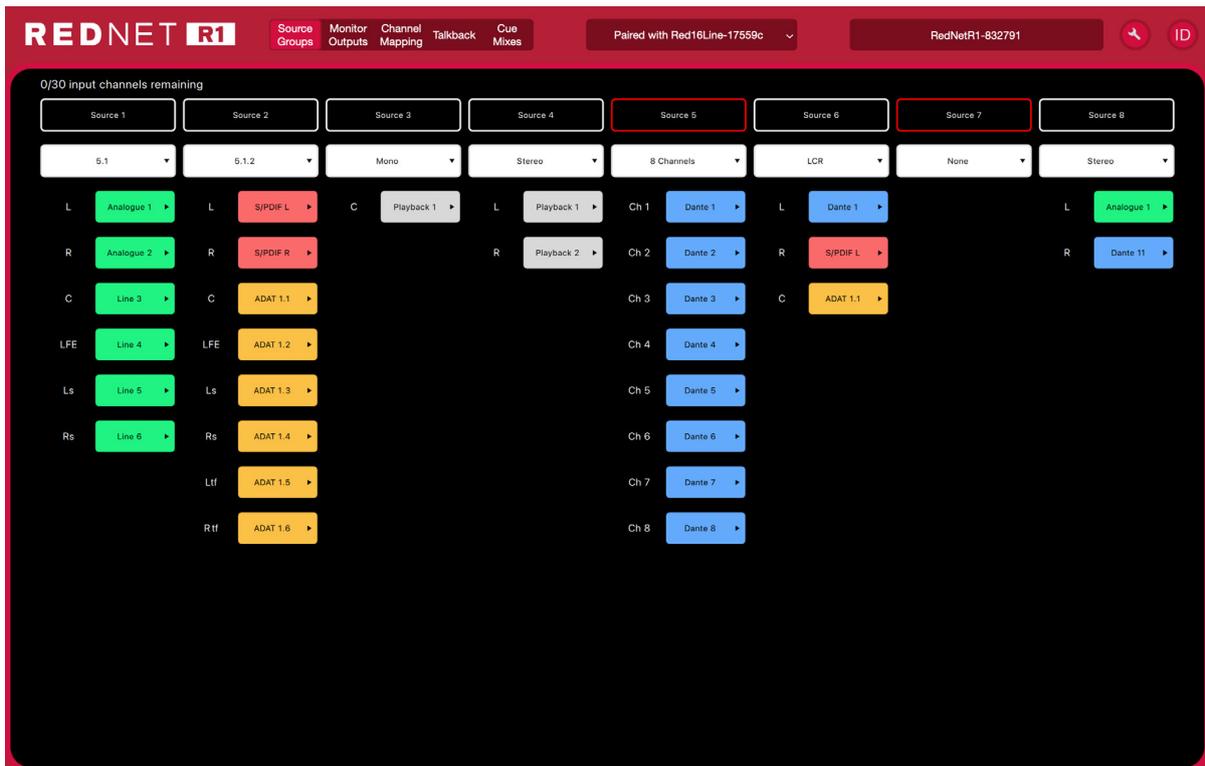
コントロールするRed機器を選択する

全てのグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)ページのヘッダーにあるドロップダウンを使用して、機材を選択します。



ソースグループ

「ソースグループ」ページは8つの入力グループに設定し、各入力チャンネルにオーディオソースを配置するために使用されます。



つづく...

ソースグループ。。

入力チャンネル設定

各ソースグループボタンの下にあるドロップダウンをクリックし、チャンネルを設定をあてがいます。

8 Channels

Source 5

2つのオプションが利用可能です。

- **プリセット**—所定のチャンネル設定のリストから選択します。
 - モノラル(Mono) - 5.1.2
 - ステレオ - 5.1.4
 - LCR - 7.1.2
 - 5.1 - 7.1.4
 - 7.1

プリセットにより、ユーザーに「チャンネルマッピング」ページで個々のクロスポイントを入力しなくても、ソースグループ(およびモニター出力)ページを設定する許可を与えます。

プリセットは表にルーティングまたはミックスデータを自動的に入力します。全てのホールドアップとホールドダウンは自動的に行われます。すなわち、7.1.4ソースは5.1出力スピーカー設定に自動的にルーティングされます。

- **カスタム**—個々の名前付きのフォーマットとチャンネルマッピングテーブル設定を許可します。

入力ソースの選択

オーディオソースはグループ内の各チャンネルに配置され、ドロップダウンを使用して選択されます。

Analogue 1

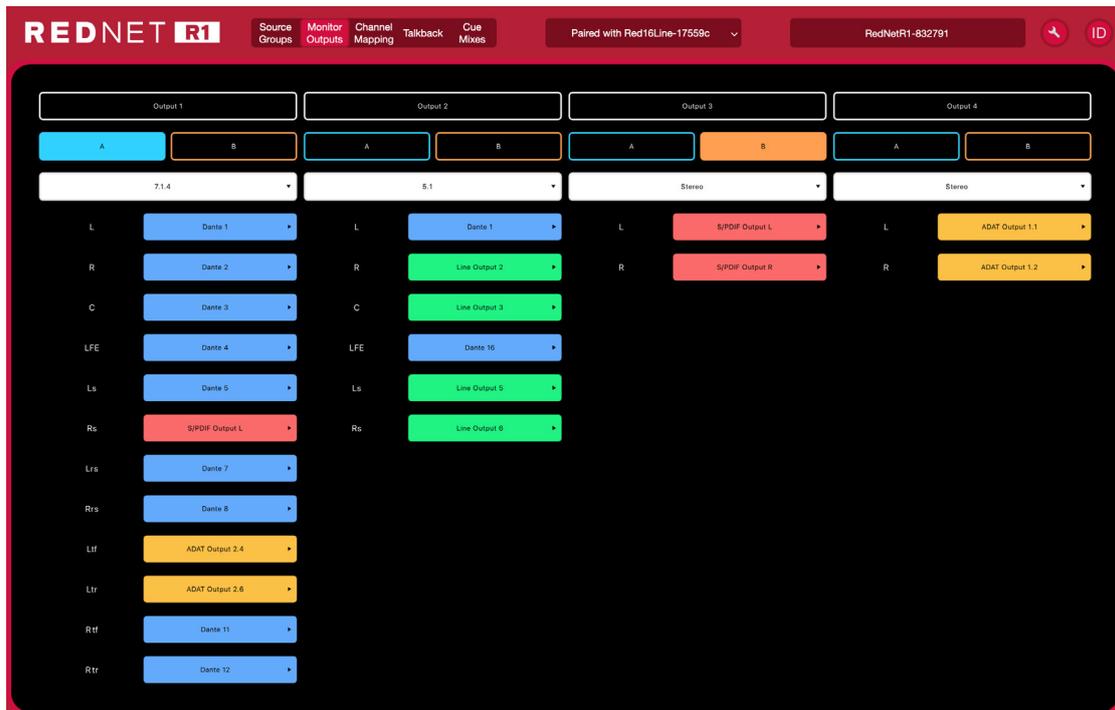
使用可能なソースリスはコントロールされた装置によって決まります。

- アナログ 1-8/16 レッドデバイス従属
 - エーダット 1-16
 - エスピーディーアイエフ 1-2
 - Dante 1-32
 - プレイバック (DAW) 1-64
- チャンネルは、ダブルクリックにより現在の名前を変更することが可能です。

出力。。。

モニタ出力

モニター出力ページは、出力グループとオーディオチャンネル配置設定に使用されます。



出力タイプ選択

各ドロップダウンを出力設定をするためにクリックします。

- モノラル(Mono) - 5.1.2
- ステレオ - 5.1.4
- LCR - 7.1.2
- 5.1 - 7.1.4
- 7.1 - カスタム(1-12チャンネル)

出力先選択

各チャンネル用のオーディオディスティネーションはドロップダウン使用しアサインされます。

- アナログ 1-8/16 - ループバック1-2
- エーダット 1-16 - Dante 1-32
- エスピーディーアイエフ 1-2

- チャンネルはそれらの現在のチャンネル番号をダブルクリックすることによって、名前を変更できます。
- 出力タイプ 1 - 4 で選択した出力チャンネルは、全ての入力ソースグループを一定にしたままですが、ルーティングとレベルによって修正可能です。次のページのチャンネルマッピングを参照してください。

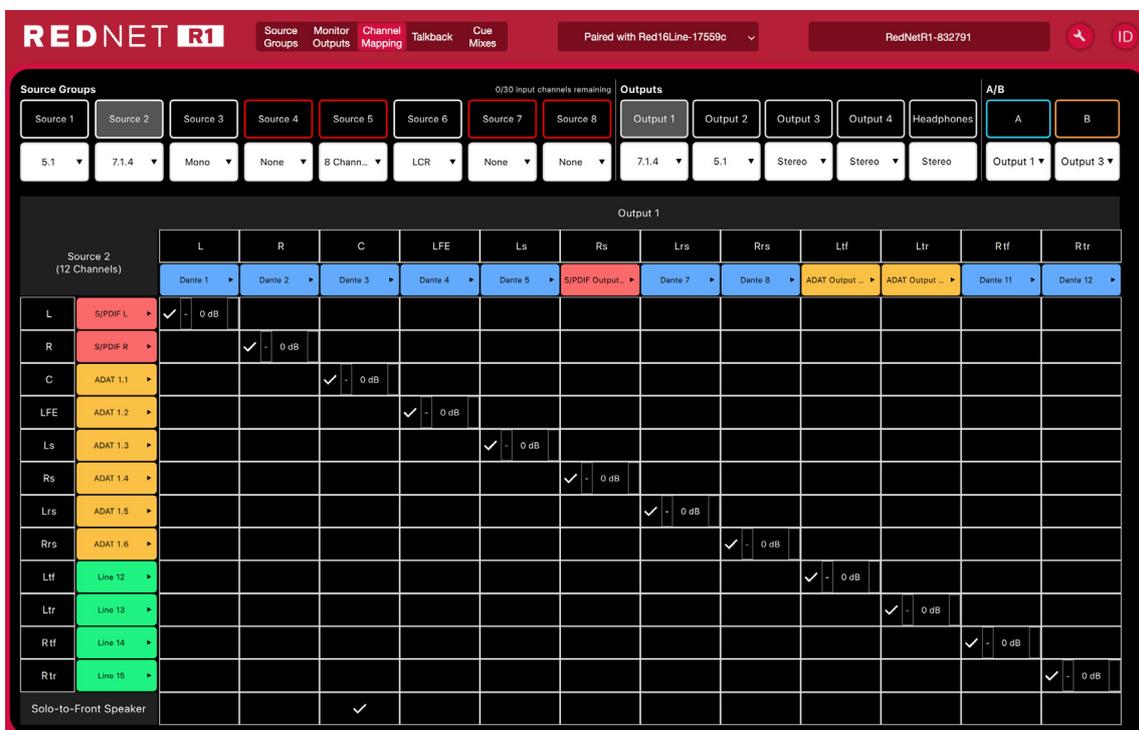
A/Bスイッチ設定

'A'(ブルー)と'B'(オレンジ)の出力を選択し、代替出力タイプをフロントパネルA/Bスイッチにアサインます。スイッチカラーは(ブルー・オレンジ)現在選択した出力を示すために切り替わります。

A/Bセットアップは設定済みでも、現在選択されているスピーカーがAまたはBいずれかの場合、スイッチは白色に点灯します。A/Bに設定されなくてもスイッチは音量が下がります。

チャンネルマッピング

チャンネルマッピングページは、各ソースグループまたは出力先選択についてクロスポイントグリッドが表示されます。個々のクロスポイントは選択/選択解除またはレベルトリムをすることが可能です。



- 表示されている行数は、各ソースグループのチャンネル数に対応しています。
- 入力ソースは多数の出力にルーティングされる場合があり、ホールドダウンまたはホールドアップの作成に役立ちます。
- 各グリッドのクロスポイントはクリックとキーボードを介して値を入力することによって編集することができます。
- ソロトゥー フロント ラウンドスピーカーは一つの出力チャンネルのみローディングが可能です。

既にソースの存在するチャンネルにチャンネル(1-12)を追加しても問題にはなりません。そしてそれはルーティングの変更にもなりません。しかしながら、もしユーザーが12チャンネルソースグループから10チャンネルソースグループに変更した場合、チャンネル11と12のミックス係数は削除され、それらのチャンネルが復活された場合、再度設定が必要になります。

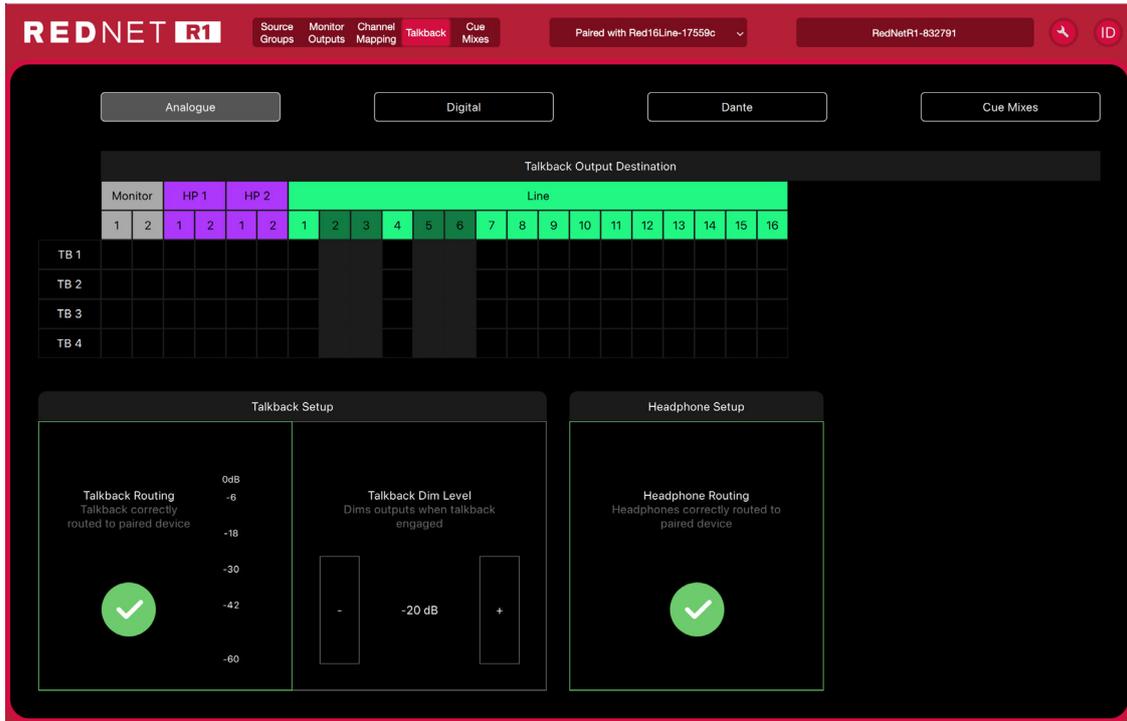
ミキサーに残っているチャンネル

最大32チャンネルが使用可能です。残りのチャンネル数はソースグループボタンの上に表示されます。

トークバックチャンネルは必要に応じてグループチャンネルを追加できるように再配置されます。

トークバック

トークバックページは、トークバック出力選択とヘッドフォン設定のクロスポイントグリッドの設定を表示します。



トークバックルーティング

ルーティングテーブルによりユーザーにシングルトークバックチャンネルを16箇所にもルーティングすることができます。テーブルの上に行先タイプが表示されます。

トークバック1-4はキューミックス1-8にも送信することが可能です。

トークバックチャンネルは名前を変更することもできます。

トークバック設定

トークバックアウトラインとアイコンは、レッド装置に接続した際に緑色で表示されます。

黄色の!はルーティングが行われており、音が出ることは許可されていないことを示している。詳細についてはDanteコントローラーを参照ください。

アイコンをクリックすると自動的にルーティングが更新されます。

トークバックが起動時は、モニターはディムレベルウィンドで設定された値によって音量が下がります。クリックし、dBに値を入力する。

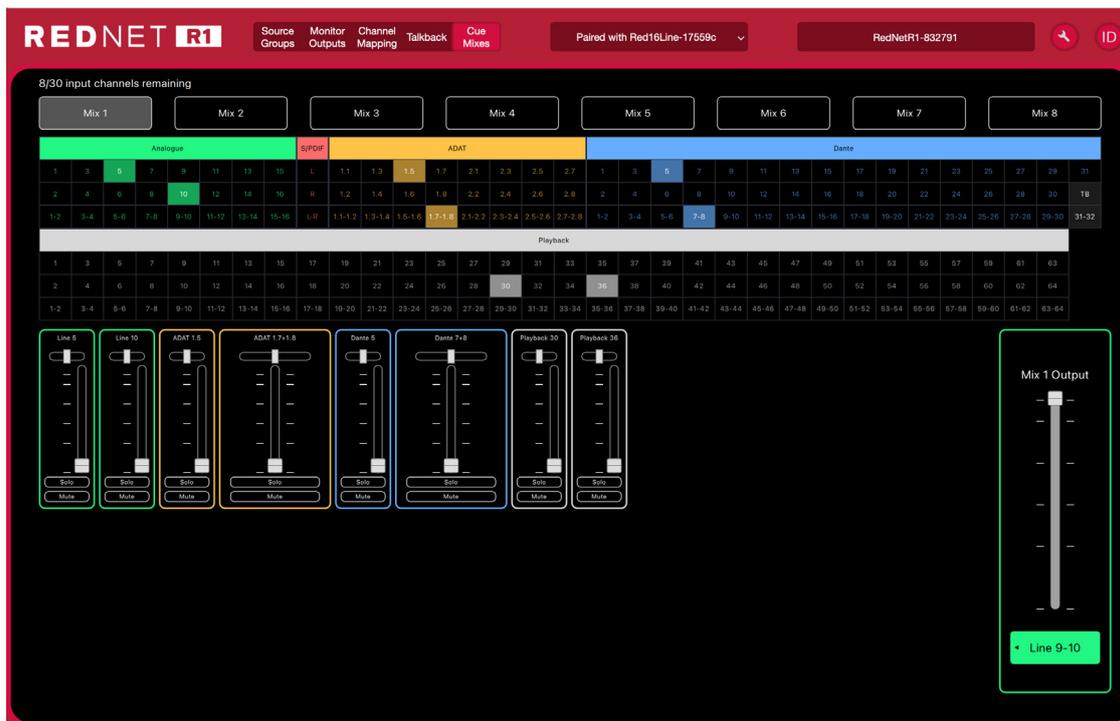
ヘッドフォン設定

レッド装置を接続時に、ヘッドフォンアイコンはグリーンチェックマークが表示されます。

黄色の!はルーティングが行われており、音が出ることは許可されていないことを示している。詳細についてはDanteコントローラーを参照ください。

キューミックス

キューミックスページは各8つミックス出力のソース、ルーティング、そしてレベル設定を表示します。



ミックス出力選択は利用可能なソースをリストの上に表示します。CMD+'click'を使用します。多数の出力先を選択します。

ミックス入力として、最大30ソースが選択可能です。

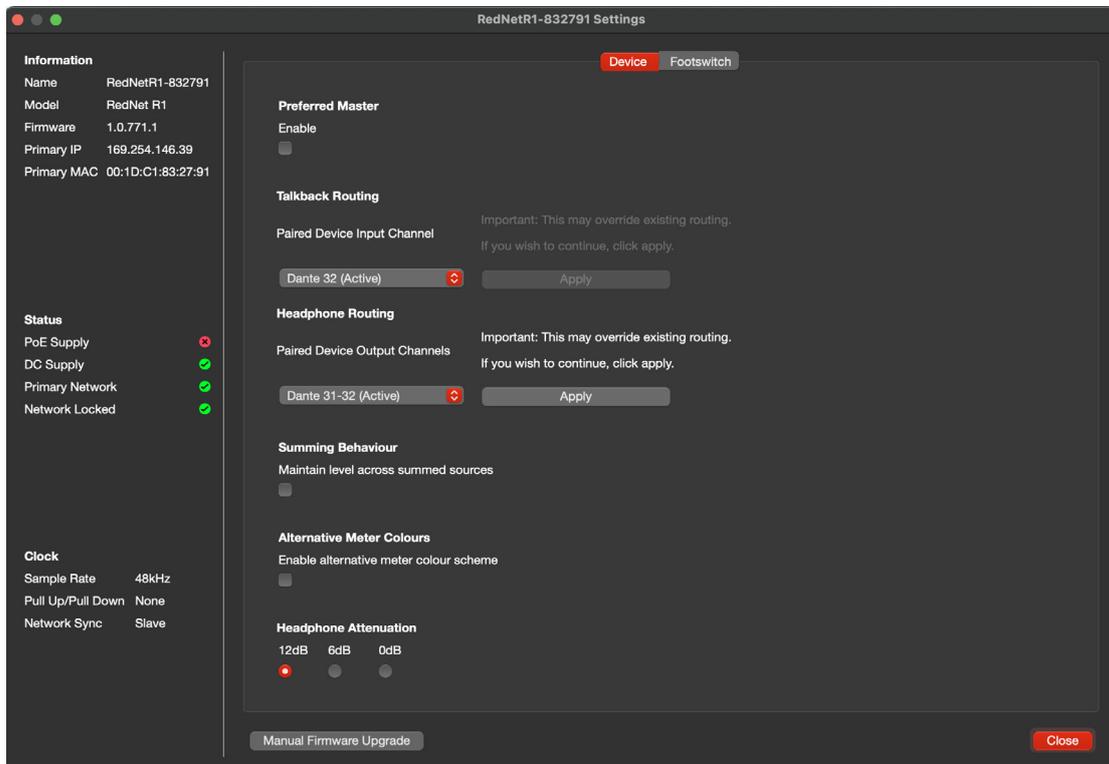
ID (識別)

IDアイコンをクリックするとフロントパネルのLEDスイッチが10秒間点灯し、コントロールされている装置を認識します。ID

ID状態は、10秒間前方のいかなるフロントパネルスイッチを押すことによって、キャンセルすることができます。一度キャンセルされると、スイッチは通常時の機能に戻ります。

ツールメニュー

ツールアイコンをクリックするとシステム設定画面になります。ツールは'デバイス(機器)'と'フットスイッチ'の2つのタブに分かれます。



機器

優先マスター – オン／オフ状態。

トークバックルーティング – トークバック入力として使用するレッド機器上のチャンネルを選択する。

ヘッドフォンルーティング – ヘッドフォン入力として使用するレッド機器上のチャンネルペアを選択する。

サミングビヘイビア – 集められたソースとして一定のボリュームを維持する自動調整出力レベルは追加または削除します。また付録 2 の 22 ページに記載があるので、ご参照ください。

代替メーターカラー – グリーン/イエロー/レッドからブルーにスクリーン 1 & 2 のレベル表示を変更する。

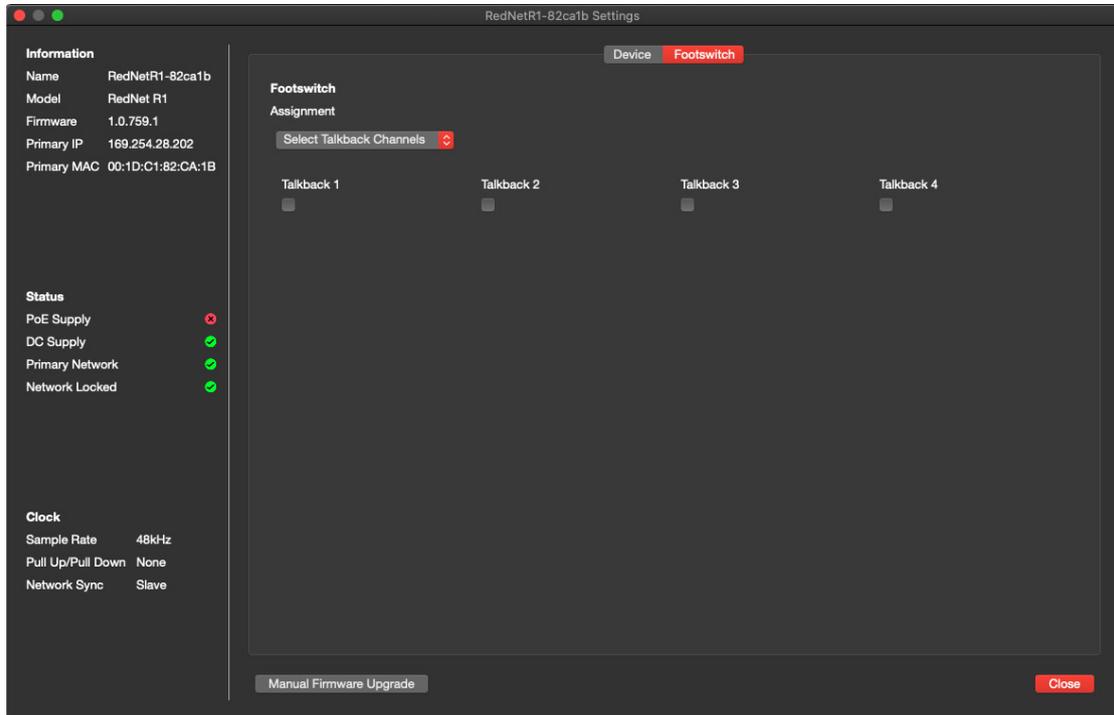
調整(ヘッドフォン) – ヘッドフォン出力ボリュームは、異なるヘッドフォン感度に合わせられるように調整することが可能です。

ツールメニュー。。。

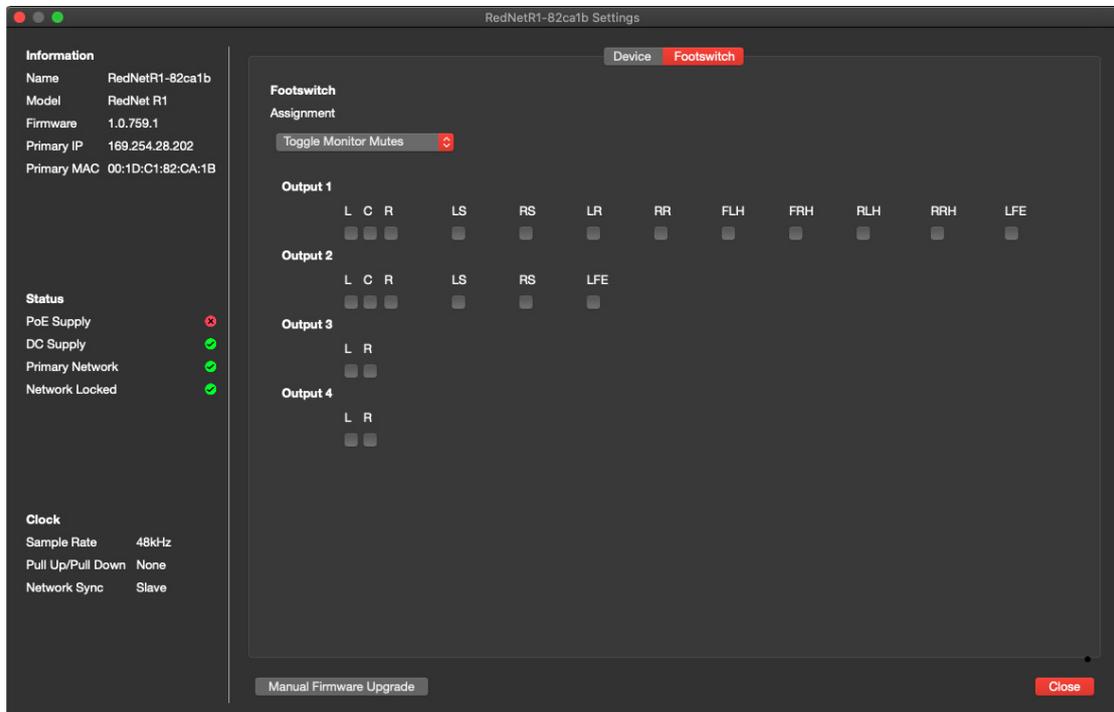
フットスイッチ

アサイン (機能処理) –フットスイッチ入力の動作選択をし、次のいずれかを選びます。

- トークバックチャンネルを稼働するまたは。。。。



- モニターチャンネルをミュートにする

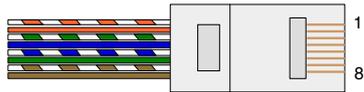


付録

1. 端子ピン配列

ネットワーク (PoE)

端子タイプ: RJ-45レセプタクル



ピン	Cat 6 Core	PoE (パワー オーバー インサ ーネット) A	PoE (パワー オーバー インサ ーネット) B
1	白+オレンジ	DC+	
2	オレンジ	DC+	
3	白+緑	DC-	
4	青		DC+
5	白+青		DC+
6	緑	DC-	
7	白+茶		DC-
8	茶		DC-

トークバック

コネクタタイプ: XLR-3フィーメール

ピン	信号
1	スクリーン
2	ホット (+ve)
3	コールド (-ve)

ヘッドフォン

コネクタタイプ: ステレオ 1/4インチジャックソケット

ピン	信号
チップ	ライト O/P
リング	レフト O/P
スリーブ	Ground

フットスイッチ

コネクタタイプ: モノラル1/4インチジャケットソケッ ト

ピン	信号
チップ	トリガー I/P
スリーブ	Ground

付録。。

2. 出入力レベル情報22

操作されているR1とRedレンジ装置の両機器は、Redデバイスのアナログ出力に接続されたスピーカーの音量調整を可能にします。

二つのコントロール装置を使用すると、モニターシステムに問題を起こす場合があります。これらの問題はR1の出力エンコーダーの高感度またはレンジが不十分になります。上記の問題を回避するために、以下のスピーカーの設定手順をおすすめします。

最大音量レベル設定

- 1 フロントパネルコントロールまたはRedNet Controlを介して使用し、Redレンジ装置全てのアナログ出力を小さい音量(しかしながらミュートにするのではなく)に設定します。
- 2 R1を最大音量にします。
- 3 システムを通して、テストシグナル/通過を行います。
- 4 スピーカー/ヘッドフォンから最大音量レベルまでRed機器のチャンネルボリュームをゆっくりと上げます。
- 5 Red1のボリュームまたは音量コントロールを使用して、上記のレベルから下げます。そして、R1を「モニターシステムボリュームコントローラー」として使用し続けます。

この手順は、アナログ出力用のみ必要になります。(デジタル出力はR1のレベルコントロールによってのみ影響を受けます。)

レベルコントロール概要

コントロールロケーション	コントロール影響	計測
Redフロントパネル	R1はアナログ出力につながっているエンコーダーを操作することができません。フロントパネルエンコーダーを調整すると、コントロール可能なレベルで影響します。	Red: ポストフェッド R1: プリフェッド
Redソフトウェア	R1はエンコーダーにつながっているアナログ出力を操作することができません。アナログ出力を調整すると、コントロール可能なレベルで影響します。	Red: ポストフェッド R1: プリフェッド
R1 フロントパネル	ユーザーは全体のソースグループを-127dB で下げられます。 ソースグループ選択ボタンを押し続け、出力エンコーダーを調整します。 ユーザーは個々のスピル入力チャンネルを-12dB で下げられる。 スピルソースチャンネルボタンを押ししたまま、出力エンコーダーを調整します。 ユーザーは全体の出力レベルを-127dB で下げられます。 出力チャンネルを押ししたまま、出力エンコーダーを調整します。 ユーザーは個々のスピーカーを-127dB で下げられます。 スピーカー/モニター選択ボタンを押ししたまま、出力エンコーダーを調整します。	R1: プリフェッド R1: プリフェッド R1: ポストフェッド R1: ポストフェッド
R1ソフトウェア	ユーザーはルーティングクロスポイントレベルを最大6dB(1dB ステップづつ)ルーティングページから微調整で下げられます。	R1: プリフェッド

レベルサミング

「サミングビヘイビ」がツールメニューで有効になっている際、ソースが追加時または削除時に、一定の出力レベルを維持するように出力レベルを自動的に調整します。

調整のレベルは下記の通りです: $20 \log(1/n)$ 、すなわち、全てのソース集計は約6dB。

性能仕様

ヘッドフォン出力	
全ての測定値は +19dBm 基準レベル、最大ゲイン、 $R_L = 600\Omega$	
0dBFS 基準レベル	+19 dBm, ± 0.3 dB
周波数特性	20 Hz – 20 kHz ± 0.2 dB
THD+N	-104 dB (<0.0006%) at -1 dBFS
ダイナミックレンジ	119 dB 'A'-特性 (典型的), 20 Hz - 20 kHz
出力インピーダンス	5 Ω
ヘッドフォン・インピーダンス	32 Ω ~ 600 Ω

デジタル性能	
対応サンプルレート	44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz (-4% / -0.1% / +0.1% / +4.167%) @24 bit
クロックソース	内部またはDanteネットワーク上のマスターから

接続性	
リアパネル	
ヘッドフォン	1/4インチステレオジャックソケット
フットスイッチ	1/4インチモノラルジャックソケット
ネットワーク	RJ45コネクタ
PSU (PoEおよびDC)	PoE (ネットワークポート) 入力 x1 / DC 12Vロックバレル入力コネクタ x1

寸法	
高さ (シャーシのみ)	47.5ミリメートル / 1.87インチ
幅	140ミリメートル / 5.51インチ
奥行き (シャーシのみ)	104ミリメートル / 4.09インチ

重量	
重量	1.04kg

電源	
パワー オーバー イーサネット (PoE)	IEEE 802.3afクラス0 PoE標準に準拠 PoE A または PoE B 互換性
DC電源	12 V 1.2 A DC 電源 x1
消費電力	PoE: 10.3 W; DC: 9 W 付属のDC PSUを使用時

Focusrite Proの製品保証およびサービス

Focusriteの全製品は最高水準で製造されており、合理的な配慮、使用法、搬送および保管が行われていれば、長年にわたり信頼性の高いパフォーマンスを提供します。

保証制度のもと返品される製品の多くは、いかなる不良も示されないことが判明しています。製品の返品において、お客様にご不便をおかけしないよう、ぜひFocusriteサポートまで一度ご連絡ください。

購入日より3年以内に明らかな初期不良品が認められた場合、Focusriteは無償で製品の修理または交換をさせていただきます。こちらをご確認ください。<https://focusrite.com/en/warranty>

製造欠陥とは、Focusriteによって説明され公表されている内容に対する製品性能の欠陥として定義されます。製造欠陥には、購入後の搬送、保管または不注意な取り扱いにより生じた損傷も、誤用により生じた損傷も含まれません。

本保証はFocusriteによって提供されますが、保証の義務はお客様が製品を購入された国を担当する販売代理店により履行されます。

保証問題または保証外の有償での修理に関して販売代理店に問い合わせる必要がある場合は、こちらより代理店までご連絡ください：www.focusrite.com/distributors

連絡を受けた販売代理店は保証の問題を解決する適切な手順をご説明いたします。いかなる場合でも請求書の原本コピーまたは店舗のレシートのコピーを販売代理店へ提出する必要があります。購入の証拠をお客様が直接用意できない場合には、製品を購入された販売店に連絡を取り、購入の証拠を用意してください。

お客様の住所または事業所のある国以外でFocusrite製品を購入された場合、制約された本保証を販売代理店に求める資格がありません。ただし保証外の有償での修理を依頼することは可能となります。

本制限付き保証は正規のFocusrite販売店(英国のFocusrite Audio Engineering Limitedまたは英国外の正規の販売代理店から直接製品を購入した販売店として定義される)から購入された製品にのみ提供されます。本保証は購入した国での法令の権利に追加されるものです。

製品の登録

Dante Virtual Soundcardにアクセスするには、以下よりお持ちの製品を登録してください：www.focusrite.com/register

カスタマーサポートおよび本体サービス

専任のRedNetカスタマーサポートチームに無償でお問い合わせいただけます：

メールアドレス：proaudiosupport@focusrite.com

電話番号(イギリス)： +44 (0)1494 836384

電話番号(アメリカ)： +1 (310) 450-8494

トラブルシューティング

ご使用中のRedNet R1 に問題がある場合は、サポートアンサーベースのご参照をおすすめいたします。